

「冬期間の農産物馬そり運搬 岐阜から網走まで」(抜粋)

國枝一雄

昭和初期、湧網線東線(網走・常呂)開通までの馬そり運搬

(略) 昭和11年に湧網線(注：湧網東線 常呂・網走間)ができるまでの常呂村は、農産物・海産物ともに、夏の間は常呂港、今の豊浜、その頃はポントマリといった所に倉庫があり、そこから発動機船、ポンポン船ともいっていた船でそれぞれの港に積み出されていたものです。

冬になると馬そりで、網走か野付牛(今の北見市)に運んでいたのです。網走までは8里、野付牛には2日かかりの12里くらいありました。

当時、私たちが農産物などを網走まで運んだ頃は、日返りといって、夜の7時から8時に家を出ました。今の大島部落の坂道(注：現在の東浜、森林公園入り口付近の坂道)を休み休み上り、馬は爪まで汗をかいたと笑いながら通い、朝、薄明かりの頃、卯原内に着きました。その飲食店で人馬ともに朝食をとりました。途中何度返したかの話に花が咲いたものです。朝食が終わって出発し、8時頃網走に着いて、さっそく臼井とか山田という雑穀商に買ってもらい、現金を手に戻るのでありました。

また途中、卯原内で昼食を済ませて夕方4時頃に家に着きました。また次の日の荷物を作り、同じように夜7時頃から出かけるのが仕事でしたが、おもしろかったですし、楽しかったです。(略)

* 「湧網線のこと」というタイトルで、「郷土こころ45号」に掲載された
文からの抜粋

* 注：昭和11年10月10日 網走・常呂間の湧網東線全通、開通祝賀会開催(当直日誌)